

毎週日曜発行
2022 12/11

こども新聞 週刊がほピョンプレス



河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)

きょうのテーマ

先端技術を活用したスマート農業って聞いたことある？ 国連の持続可能な開発目標（SDGs）の「産業と技術革新の基礎をつくる」を実現する取り組みだよ。ミ



地球のためにできること

野菜作りに先端技術

9 産業と技術革新の基盤をつくる



AI活用、負担減り収穫増

ニトマト栽培に人工知能（AI）を使って、水と肥料を自動投入するシステムを導入し、生産量を増やしている東松島市の施設を取材しました。

東日本大震災の津波の被災地にある「幸満つる郷 K D D I エボルバ野蒜」は、無農薬ベビリーフやミニトマトのほか、ネギ、ナスなど約40品目を生産しています。2017年の開所以来、障害者の雇用に積極的に、従業員68人のうち障害者手帳を持つ人は49人。13のグループに分かれて、交代制で農作業をします。ただ、ミニトマトを育てるビニールハウスは気

温が高く、夏場は45度になることも。溝江健太郎所長(44)は「働く人の健康状態が心配だった。負担を減らすことが出発点」と19年にシステムを導入した理由を説明します。

ハウスの土にはパイプ

障害によっては、規則

が埋め込まれ、AIが1時間に2回、土の成分を計測。適切な量の水と液体肥料を自動で投入してくれます。



先端技術を取り入れたミニトマト栽培。収穫は12月いっぱい続く＝11月22日、東松島市

正しい水やりが苦手な人もいますが、自動化で、水やりにかけていた時間に別の作業をすることが可能になりました。「結果的にミニトマトの質が上がり、収穫量も増えました」と溝江さん。21年度の収穫量は、前年度の1・6倍の約2・3トでした。



収穫した野菜は月2回、仙台市内などで販売します。毎回完売するほどの人気ぶり。ミニトマトのハウスで草取りをしていた女性従業員は「自分が育てたミニトマトを、お客さんが手に取ってくれた瞬間が一番うれしい」と笑顔で話しました。

スマート農業が、障害者が働きやすい環境作りにも役立っているよ。生産量も増えて一石二鳥だね。

みんな思い出

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ

今週の注目ニュース

◇14日(水) 南極の日

1911年のこの日、ノルウェーの探検家ロアル・アムンセンら5人が、人類で初めて南極点に到達したよ。57年に日本の昭和基地が開設された日を記念し、1月29日も「南極の日」と言われているんだ。

ページの紙面

- 2面 イマ★どきりポート
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 聞いて学べる こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 かほく防災記者 1期生レポート